

令和 5年 8月「月報」

1 はじめに



入間基地納涼祭の花火

暑いが続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか？

募集協力強調月間が始まって1か月となりました。各地本は7月21日から8月31日までの間に「陸海空サマーフレンドシップキャンペーン」を展開し、陸海空一体となって採用広報を行っています。各県自衛隊家族会では様々な協力をいただいているところです。6月14日の募集協力者会場で紹介された「情報を得る手段はWebサイトやテレビが多いが、入隊決定にあたり最も大きく影響を与えたのは『地方協力本部の人』『家族・友人』」のお話は、

私たちの募集協力活動に大きな自信を与えるものです。

デジタルの世になっても、大事なのは『人』であり、伝えた内容に信頼を置くか否かは伝える『人』が信頼できるかどうかにかかっているのでしょう。

2 防衛省・自衛隊の活動（写真、図表は各幕、駐屯地・基地等HP等より。）

(1) 秋田県における大雨災害に係る災害派遣

7月14日（金）からの大雨に伴う土砂災害の影響で配水管が破損し、秋田県山本郡八峰町（はつぼうちょう）、秋田県男鹿市（おがし）、秋田県南秋田郡五城目町（ごじょうめまち）において合わせて約8,200世帯で断水等が発生し、秋田県知事の要請により、陸自第21普通科連隊（秋田駐屯地）、陸自第9化学防護隊（青森駐屯地）、空自第33警戒隊（加茂分屯基地）が、また、秋田市内で被害を受けた総合病院の入院患者を他所に移送するため、第21普通科連隊が災害派遣活動を実施しました。



陸自第21普通科連隊

空自第33警戒隊



また、第21普通科連隊及び第2施設団第11施設群第357施設中隊（秋田）により、秋田市内の災害廃棄物の撤去支援（日中、自治体とボランティアが災害廃棄物を集積し、夜間、自衛隊が集積場から一時仮置場までの輸送を実施する共同オペレーション。）を実施しました。

- (2) 2023年度1四半期(4月1日～6月30日)における緊急発進回数は238回であり、昨年度の235回とほぼ同じ数でした。これは、一昨年度の同時期の142回が、昨年100回以上増加した高い水準を保っているということです。国別では、対中国が66%、対ロシアが31%であり、わが国周辺の空域では中ロ両国の活発な活動が続いています。
- (3) 7月28日、防衛省は令和5年版防衛白書を公表しました。戦略三文書の策定後、初めて刊行される白書であり、三文書策定の経緯や概要を記述し、また、我が国周辺国の軍事動向など、我が国を取り巻く安全保障環境や、防衛省・自衛隊の取組、米国を始めとする各国との協力などについて、まとめています。
詳しい記事が「おやばと9月号」に掲載されます。
- (4) 6月14日に発生した自衛官候補生による発砲事案で殉職された隊員の葬送式が7月23日に陸上自衛隊守山駐屯地(名古屋市)で、第10師団長を執行者として執り行われました。自衛隊家族会は増田会長の代理として堀川愛知県家族会会長が列席し、花を供し、お二方の御霊をお送りしました。
- (5) 各種訓練トピック (陸幕HP、各基地HP 等より)



海自幹部候補生学校
遠泳訓練



空自小牧基地 航空医療
搬送訓練
モビリティ・ガーディアン23

陸自 能力構築支援
(於：インドネシア)



3 家族会の活動

- (1) 新潟県自衛隊家族会新発田地区協議会(音田孝夫会長)は、6月24日(土)陸上自衛隊新発田駐屯曹友会との合同地引網大会を実施しました。
当日朝は雨模様でしたが、網入れの7時までには上がり、みるみる青空が広がって、絶好の環境となりました。



大漁の獲物は参加者皆でバーベキューを楽しみ、過去5年間「地震・荒波・新型コロナ」等により開催できなかった穴をこの一日で埋め、曹友会と家族会との交流・絆を深めました。

(2) 栃木県家族会が05JXR関連の安否確認訓練に参加

栃木県家族会は、6月28日(水)に行われた05JXRに参加し、発災後の自衛隊員家族の安否確認訓練/検証を行いました。訓練は、指揮所を陸自宇都宮駐屯地、地域調整所を自衛隊栃木地方協力本部大田原地域事務所に置き、安否確認を担う家族会会員宅から安否確認を要望する隊員家族宅を訓練地域として行われました。

(3) 熊本県家族会が募集協力

7月10日(月)、熊本県家族会が、自衛隊熊本地方協力本部が実施した市街地募集広報に協力しました。

これは、県内高校3年生への募集解禁に合わせて実施したもので、熊本駅、水前寺駅、新水前寺駅、藤崎宮前駅を利用する学生に対し、ティッシュやチラシを配布してPRしました。



(4) 石川県自衛隊家族会が「港フェスタ金沢」で入港した護衛艦を歓迎

7月14日(金)、石川県家族会が、港フェスタ金沢にちなんで金沢港クルーズターミナルに入港した海自舞鶴地方隊所属の護衛艦「ふゆづき」を歓迎し、艦長及び地元石川県出身10名の隊員を激励しました。

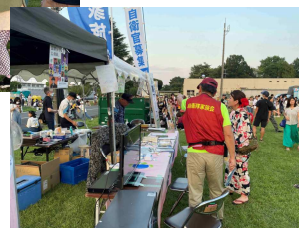


(5) 入間市自衛隊家族会が募集協力

7月26日、4年ぶりに実施された空自入間基地納涼祭の会場に設置された埼玉地方協力本部の広報ブースでお手伝いしました。7月20日の入間市駅街宣以来、2回目となる「陸海空自衛隊サマーフレンドシップキャンペーン」への協力です。



埼玉地本の
マスコットキャラ
「サイボン」と!



(6) 鹿児島県家族会が広報イベントに協力

7月29日及び30日の二日間、鹿児島県家族会が鹿児島北ふ頭で実施された「自衛隊みなと祭り」に参加し、鹿児島地方協力本部を支援しました。

この祭りには、第14護衛隊(舞鶴)所属の護衛艦「せんだい」、「せとぎり」、「あさぎり」の一般公開をはじめ、陸自空自の装備品展示や佐世保音楽隊、西部





航空音楽隊、鹿児島高校吹奏楽部などのミニコンサート、薩摩川内焰児太鼓の演奏のほか、鹿児島水産高校の枕崎PR隊「さつま乙女」による「かつお解体ショー」が行われ、そして、自衛隊ブースでは制服試着&記念撮影、缶バッジプレゼント、「南極の氷体験」、空自航空機の「操縦悍」展示などが行われ、盛り沢山の内容で、来場者は7,988名で、猛

暑の中、大変な賑わいでした。鹿児島県家族会はイベント会場に近い鹿児島市の3つの家族会から女性を主体に2～4名ずつ参加して支援しました。来場された方々が、自衛隊の活動を聞いたり、現職自衛官の動作をみて、募集適齢者が自らあるいは親御さん等を通じて一人でも募集に繋がればと願うところです。

(7) 第20次派遣海賊対処行動支援隊の激励

7月18日(火)、栃木県自衛隊家族会長長谷川副会長、國井理事、山宮女性部長が、陸自宇都宮駐屯地で催された第20次派遣海賊対処行動支援隊(中央即応連隊基幹)の壮行会に参加し、警備隊長の任に就く中央即



山宮女性部長 隊長 長谷川副会長
國井理事

応連隊第1中隊長に激励品を手交して激励しました。

中央即応連隊長↑

部隊は、ジブチでの半年間の任務に就きます。

(8) 山形県家族会長が第19次派遣海賊対処行動支援隊帰国行事に参加

7月30日(日)、ジブチでの半年間の任務を終えて帰国した第19次派遣海賊対処行動支援隊(第20普通科連隊基幹)の帰国行事が、第6師団司令部のある山形県神町駐屯地で行われ、山形県家族会黄木会長が労いの挨拶をしました。



同部隊は空港での警備や維持管理の任務の他、スーダン情勢が悪化した4月には、避難する邦人の受け入れ支援にあたるなどしました。

隊長の丸山3等陸佐は帰国の挨拶の中で「今回の



派遣で得た教訓を生かし、任務に邁進したい。」と述べるとともに、自衛隊家族会からの激励に対する感謝の言葉を述べました。(写真：第6師団司令部総務課広報班提供)

4 事務局からの連絡

会章、会旗、ロゴマークについて、度々質問が寄せられておりますので、連絡かたがた説明いたします。



会章：昭和51年社団法人化認可申請にあたり制定。

「会員章」との呼称で始まりましたが、平成28年には「会章」と呼ばれていた記録があります。

会旗：62年社団法人化10周年にあたり、会（員）章を紫紺の地に白で浮き上がらせて制作。

平成28年、会の名称変更検討に併せ、新たな「会章」制定の検討が行われましたが、

- ① 会の名称は変更したが会自体は継続しているので会章を変える必要はない。
- ② 本会のルーツである「父兄会」の原点（DNA）を継続することができる。

の理由により、引き続きこれを使用することとし、会章を中央に配した会旗も変更せずに引き続き使用することとなりました。（28年度理事会～総会）

ロゴマーク：



『会章を変更せず、引き続き使用する』との結論を受けて、

「自衛隊家族会」のイメージに相応しい「ロゴマーク」を

作成し、「自衛隊家族会」の広報・普及に資するとの考えの下、

○「自衛隊員に最も身近な存在」であることに誇りを持ち、国民の先頭に立って隊員及び家族を支え、ともに助け合う「自衛隊家族会」をイメージ。○キーワードとして自衛隊と家族、絆、

支え、架け橋など自衛隊（員）と家族をつなぐイメージが瞬時に汲み取れるロゴマーク。・・・として作成したものです。（平成29年6月総会）

ロゴマークの意味するところは、40年史100頁をはじめ、家族会HPや家族会パンフレットにも掲載されておりますのでご一読ください。

ロゴマークは「自衛隊家族会が発信するあらゆる出版物や会員の名刺等に表示して自衛隊家族会の広報・普及に資する。」という作成目的に照らし、「幟」「ビブス」「帽子」等々、どんどん活用していただければと存じます。

以上